

【田舎館村教育委員会】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

- (1) 児童生徒自身がICTを学びのツールとして自由な発想で適切に活用できるようにし、学習の基盤となる資質・能力である情報活用能力を育成する。
- (2) ICTの特性を最大限に活用して、誰1人取り残すことなくきめ細やかな支援をし、個々の才能を伸ばすための高度な学びの機会や多様な学びの機会の充実を目指す。
- (3) 児童生徒が自他の権利を尊重し、情報社会での行動に責任を持つことで、情報を正しく安全に利用できるよう、情報モラルの向上と情報セキュリティ意識の醸成を図るとともにデジタル技術の活用を通して、社会に積極的に関与し、参加する能力の習得を目指す。

2. GIGA第1期の総括

令和2年度に全児童生徒分の1人1台端末及び全学校における通信ネットワーク等を整備し、学校現場における教科や学習場面に応じた情報の収集・理解・整理・発信・共有及び個別の学びのツールとして1人1台端末の日常的な利活用を図るとともに、1人1台端末の家庭への持ち帰りを可能とし、デジタルドリル等を用いた家庭学習や、不登校傾向にある生徒の遠隔授業など様々な場面で活用することで、児童生徒の学習意欲の向上及び学習環境の整備に努めた。

また、GIGAスクールの運営支援を業者に委託し、ネットワークトラブル等の早期解決や学校の要望に応じたICT活用の相談など、児童生徒の学習環境に支障が生じないように努めるとともに、児童生徒に情報活用能力を身に付けさせるための教職員のICT活用指導力の養成を図った。

GIGA第1期の課題としては端末の故障や破損である。端末の活用が進み、故障や破損が想定以上に多く、現在は予備機で対応しているが、GIGA第2期では、十分な予備機を整備するとともに、故障機に対する保守等について検討し課題を解決していく。

3. 1人1台端末の利活用方策

(1) 「1人1台端末の積極的活用」

端末の家庭への持ち帰りを日常化し、学習者用デジタル教科書、デジタルドリル、授業支援ソフトウェア等を校内及び家庭学習で活用していく。

(2) 「個別最適・協働的な学びの充実」

児童生徒1人1人が自分で調べたり、考えをまとめ、発表・表現したりする場面などにおいて、自身の学びを広げていくために、1人1台端末を積極的に活用する。

児童生徒が自身の特性や、理解度・進度に合わせて課題に取り組み、個別最適・協

働的な学びの一層の充実を目指す。

(3)「学びの保証」

不登校児童生徒や、特別な支援を要する児童生徒等に対して、その実態に応じて端末を活用した支援を実施する。

これらを実現するためにも、端末の整備・更新により児童生徒向けの1人1台端末環境を引き続き維持することが重要であるとする。